

令和七年度 卒業式 式辞

能登穴水町も一雨ごとに暖かくなり、確実に春が近づいて来ました。今日の良き日に、穴水町長、吉村光輝様をはじめ、多くの来賓の皆様と保護者の皆様のご臨席のもと、「第77回卒業証書授与式」を挙行できますことに心から喜びを感じます。

保護者の皆様、本日は誠におめでとうございます。小中高の12年間、それぞれの成長に寄り添いながら、今このようにたくましく成長されたお子様の姿にさぞや感慨深いものがあるかと存じます。

そして今、卒業証書を手にした28名の卒業生のみなさん、卒業おめでとうございます。本校での3年間の課程を修了した充実感と、新生活への期待を胸にしたみなさんに、心から幸多かれとお祈りします。

さて皆さんの3年間を振り返る時、避けて通れないのが令和6年能登半島地震です。皆さんが1年生の冬休み、元日に被災し、穴水町、皆さんの自宅、そして穴水高校も大きな被害を受けました。被災当時は全く先が見えない状況でしたが、多くの方々のご支援とご協力をいただき、1月22日に穴水中学校で学校を再開することができました。私は、穴水中学校の一室で明るく授業に参加するみなさんの姿を見て、本当に仲が良く、団結力のある学年だなあと感じました。

その後3月30日に登校坂が復旧し、校舎一カ所に通水したことで、令和6年度は4月より本校由比ヶ丘校舎で教育活動を再開でき、みなさんの2年生がスタートしました。みなさんは「焦らず、腐らず、あきらめず」の精神で、地震に負けない強さを持って、日々前に進んでくれました。6月、皆さんと一緒にいった修学旅行。最後の夜、沖縄の砂浜で線香花火の光を見つめるみなさんの笑顔は、今でも懐かしい瞬間として私の心に残っています。

ハード面での復旧・復興はなかなか進まない中でしたが、令和7年度、皆さんにとって高校最後の学年がスタートしました。「できない理由を考えるのではなく、どうすればできるかを考える」を全校の目標に掲げ、みなさんは不平不満を口にする事なく、明るく元気に学校を引っ張ってくれました。

特に8月30日の穴高祭。クラス毎の模擬店や催し物、美術・書道の作品展示、カラオケ大会、書道ガールズやダンス同好会のパフォーマンス、吹奏楽部のミニコンサート、クイズ大会など生徒会執行部をはじめとする3年生が主体となり、来校された皆様にも楽しんでいただけたと思います。また、PTA企画やキッチンカー、岐阜県南宮大社の方々による射的やビンゴゲーム、お菓子撒き大会なども開催され大いに賑わいました。学校施設の補修工事中で調理室や体育館の一部が使用できないという制限はありましたが、全校生徒が一丸となって穴高祭を成功させることが出来ました。この素晴らしい経験をいつまでも忘れないでください。

そんな皆さんに、3年前の入学式で贈った「幸せはいつも自分の心が決める」という言葉をもう一度贈ります。これは、相田みつをさんの言葉で、私の座右の銘です。

卒業後の皆さんには、楽しいこと辛いこと、今まで以上に色々なことが待ち受けています。

大学や短大、専門学校では、学習する内容がより専門的で難しくなり、自分の思うように進まないことがあるかもしれません。就職先では、年齢の異なる社員とのコミュニケーションに悩んだり、仕事を覚えられずに落ち込んだりするかもしれません。そんなときは、「ああこれは自分を成長させてくれるためなんだ」と考えてみてください。今の苦勞を乗り越えれば、その先にはもっともっと成長した自分があると信じて頑張ってみてください。

また、学生や社会人として、毎日の生活が忙しく、時間がいくらあっても足りないと思うことがあるかもしれません。そんなときは、「忙しいなあ、辛いなあ」と思うのではなく、「充実しているなあ、やりがいがあるなあ」とポジティブに考えてみてください。

今の自分に与えられた環境をどう捉えるかは、自分自身の心次第で変わります。「幸せはいつも自分の心が決める」のです。

これからのみなさんには無限の可能性があります。ぜひ、それぞれの夢を持ってこれからの人生を歩んで行ってください。私たちはいつまでもみなさんを応援しています。

みなさんは今日、穴水高校を巣立ちます。令和8年度、本校は創立80周年を迎えますが、その時には、みなさんも8千人を超える本校同窓会の一員として、母校を支えお祝いしてください。

結びになりますが、この3年間、本校の教育活動にご理解とご協力を賜った保護者の皆様と、地域の方々に厚く御礼申し上げますとともに、本日の門出を祝福いただきましたことに、心から感謝申し上げます、式辞といたします。

令和8年3月3日

石川県立穴水高等学校

校長 島崎 康一